

平成19年度実績

各分野において新たなステージに入った年度

- ・N700系の営業運転を開始（本年3月より毎時1本運転）
 - ・Eにより新幹線・在来線をチケットレスでスムーズに
 - ・超電導リニアによる東海道新幹線バイパス
全額自己負担を前提に、実現に向けた取り組みを開始
 - ・ジェイアール名古屋タカシマヤ売上高一千億円達成
- これらに加え、好調な経済状況や閏年ということもあり、当期は、収益・利益ともに過去最大の決算

平成20年度見通し

- 政府などが景気判断の下方修正をするなど、当社を取り巻く経営環境は変化
- その中で、安全・安定輸送の確保を最優先に、東海道新幹線については、
N700系の集中的な投入
輸送基盤の強化
東海道新幹線バイパスの実現に向けた取り組みを推進。
- 過去最大となった平成19年度に次ぐ高い目標予断を許さない経営環境のもと、その達成に向け全社を挙げて取り組む。

配当について

- 当期末の配当金
各種施策の展開に加え、好調な経済状況もあり、下期以降においても輸送量が好調に推移したという状況を踏まえ、
4,500円 / 株 (当初予想から500円 / 株増額)
- 20年度の配当金
様々な課題に対処しつつも安定的な経営を維持していただけるとの判断のもと、中間・期末ともに
4,500円 / 株

平成19年度決算

(億円)

	連結			単体		
	18年度 A	19年度 B	増減 B - A	18年度 C	19年度 D	増減 D - C
営業収益	14,912	15,594	681	12,123	12,612	489
営業費用	10,887	11,250	362	8,314	8,484	169
営業利益	4,024	4,344	319	3,808	4,128	319
営業外損益	1,658	1,582	76	1,640	1,564	76
経常利益	2,366	2,762	395	2,167	2,563	396
当期純利益	1,371	1,597	226	1,301	1,539	238

経営成績の概要

収 益

鉄道事業

新幹線

昨年7月のダイヤ改正などにより、収入が426億円(4.1%)増加

在来線

特急列車、都市圏の列車のご利用が好調で、収入が26億円(2.6%)増加

鉄道以外の事業

各セグメントとも好調に推移

費 用

税制改正等の影響で減価償却費が132億円増加したほか、物件費も増加したことなどから営業費全体で362億円増加
長期債務の金利低下などにより、支払利息は120億円減少

当期純利益を1,597億円計上。自己資本比率は17.8%に

キャッシュ・フロー / 長期債務

キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・イン 【5,008億円】

東海道新幹線の運輸収入の増などにより738億円増加
投資活動によるキャッシュ・アウト 【2,665億円】

固定資産の取得に係る支出増などにより481億円増加
フリー・キャッシュ・フロー 前期と比べ256億円増加

財務活動によるキャッシュ・アウト 【2,364億円】

自己株式の取得を行った前期と比べると1,089億円減少
現金 現金同等物の期末残高は、前期末と比べ21億円減少

長期債務

連結 3兆3,361億円 (前期末比 1,624億円)

単体 3兆2,601億円 (同 1,555億円)

平成20年度業績予想 (単体)

(単位 : 億円)

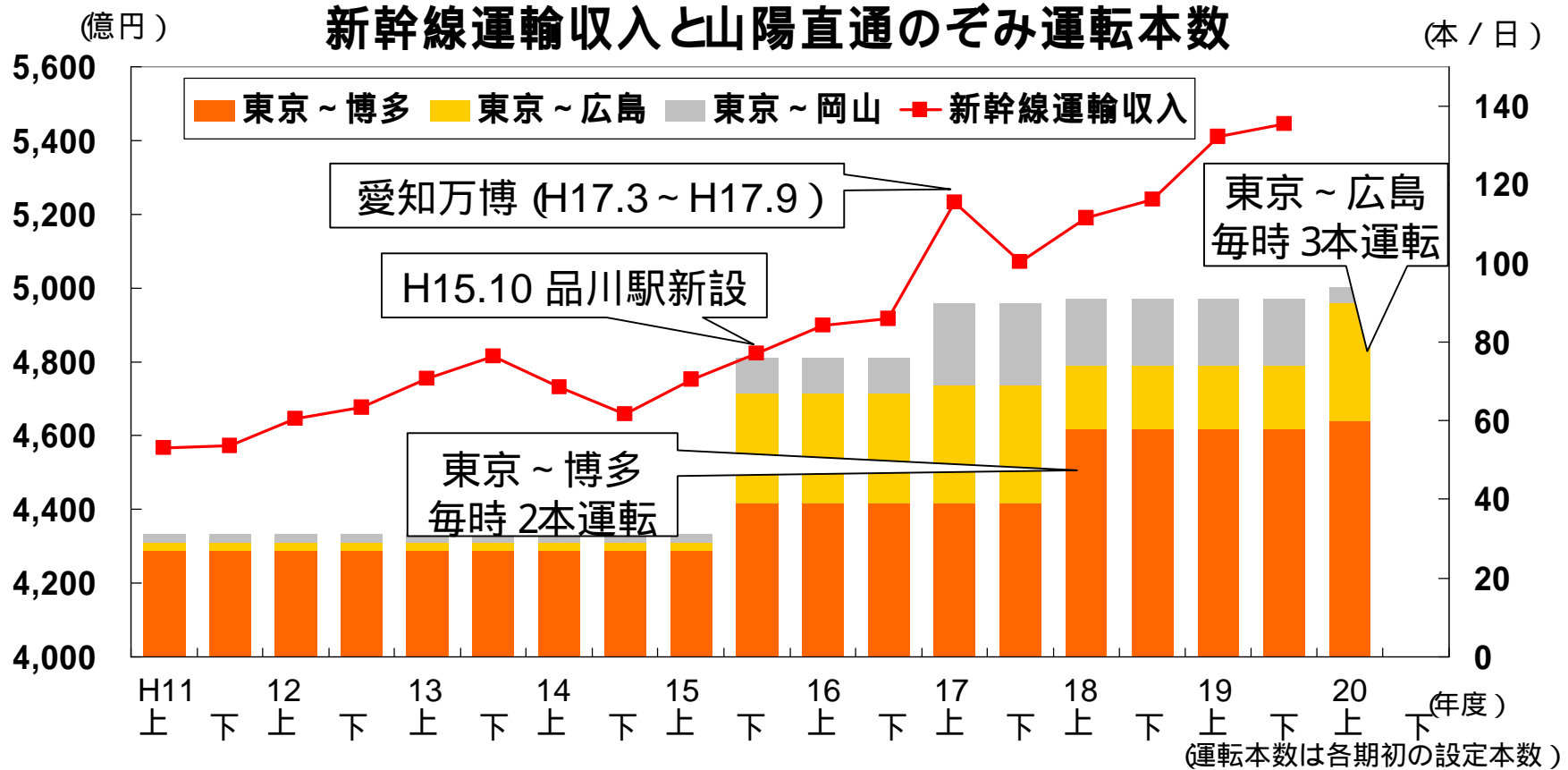
	19年度 実績	20年度 予想	増減
営業収益	12,612	12,500	112
うち運輸収入	11,923	11,803	120
営業費用	8,484	8,680	195
うち減価償却費	2,139	2,320	180
営業利益	4,128	3,820	308
営業外収益	87	70	17
営業外費用	1,651	1,540	111
経常利益	2,563	2,350	213
当期純利益	1,539	1,410	129

平成20年度業績予想 (連結)

(単位: 億円)

		19年度 実績	20年度 予想	増減
運輸業	営業収益	12,602	12,490	112
	営業費用	8,495	8,698	202
	営業利益	4,107	3,792	315
流通業	営業収益	2,027	2,077	49
	営業費用	1,946	2,002	55
	営業利益	80	75	5
不動産業	営業収益	660	703	42
	営業費用	544	563	18
	営業利益	115	140	24
その他	営業収益	1,758	1,635	123
	営業費用	1,719	1,601	118
	営業利益	38	34	4
連結計	営業収益	15,594	15,520	74
	営業費用	11,250	11,470	219
	営業利益	4,344	4,050	294

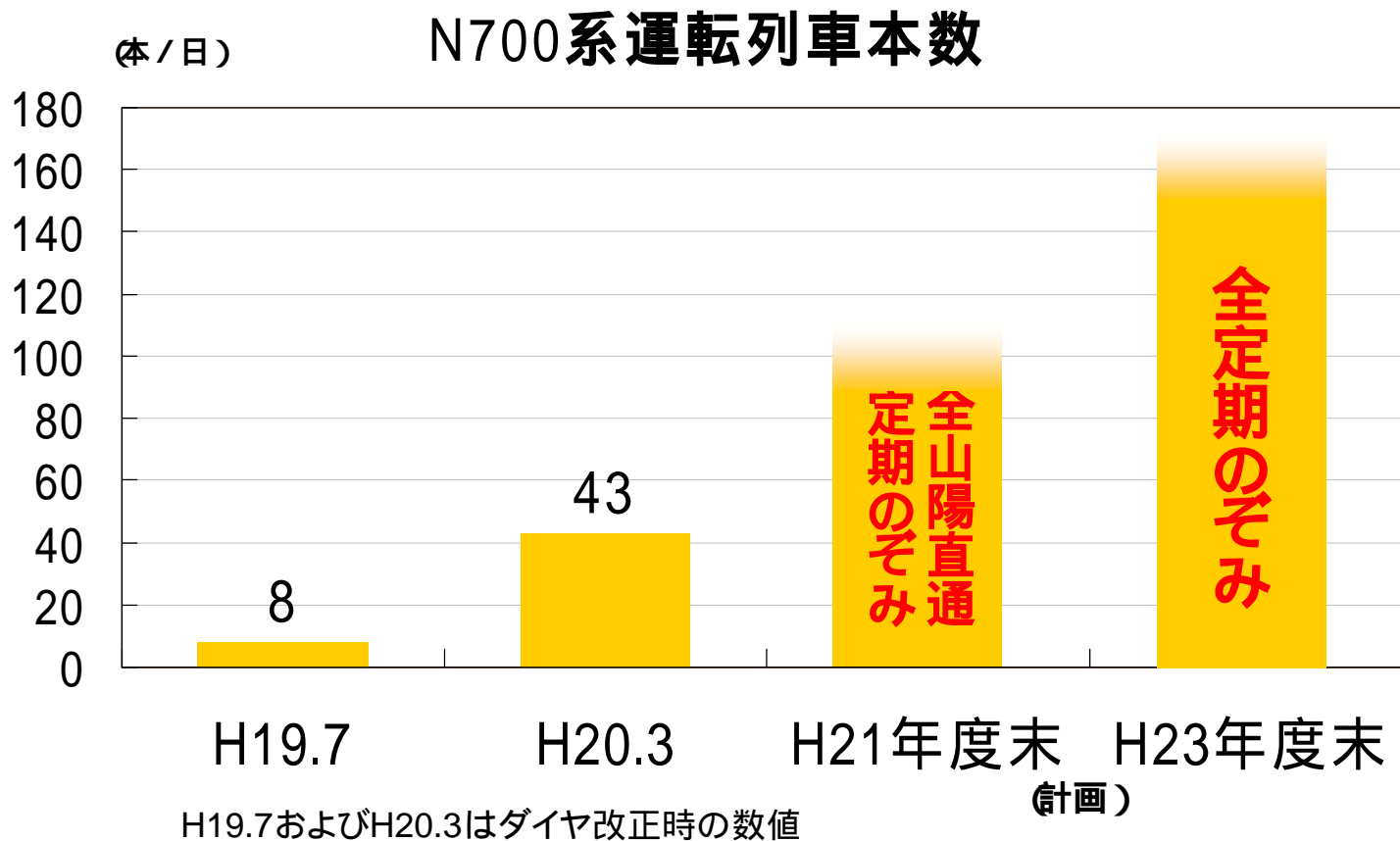
新幹線収入の実績と見通し



- 景気等、当社を取り巻く経営環境を勘案し、平成20年度は、
 - 運輸収入は、上期 対前年 100%、下期 同 98%と予想
 - 業績予想は、昨年度の業績に次いで過去 2番目の数値

平成20年3月 新幹線ダイヤ改正 (N700)

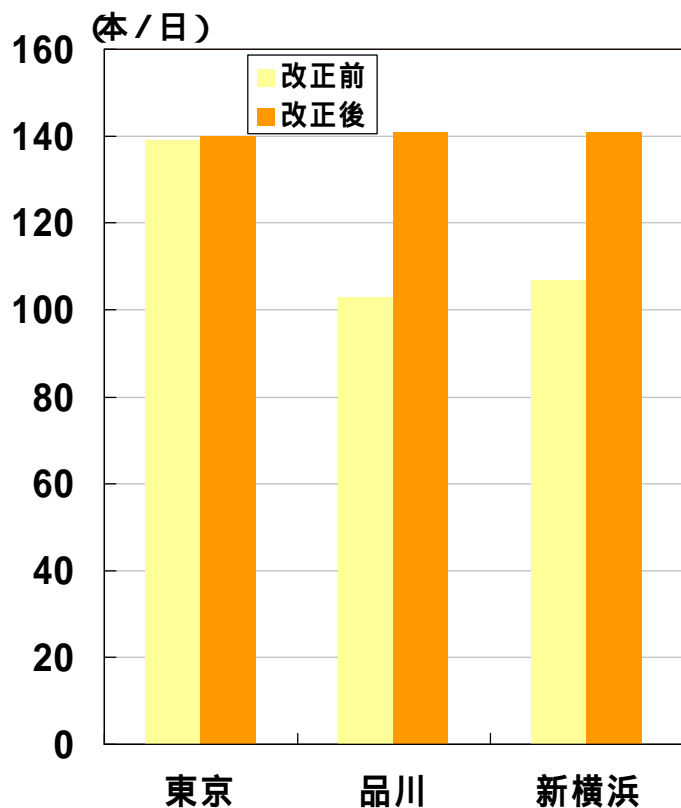
- N700系は、H20.3月のダイヤ改正において、毎時1本運転とし、大幅増発。



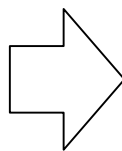
平成20年3月 新幹線ダイヤ改正 (品川、新横浜)

品川、新横浜に全のぞみが停車。首都圏の利便性が向上。

のぞみ停車本数の増加

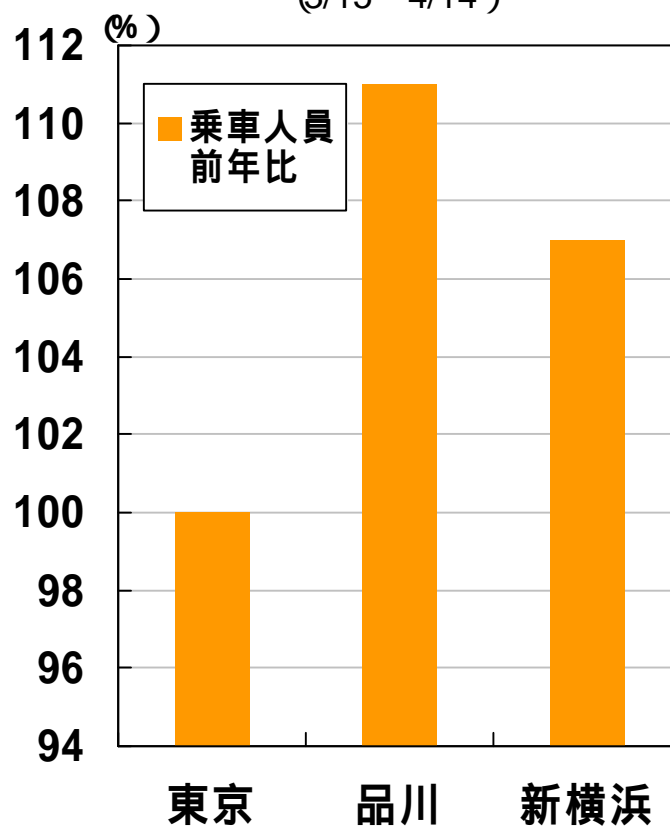


定期列車のみ



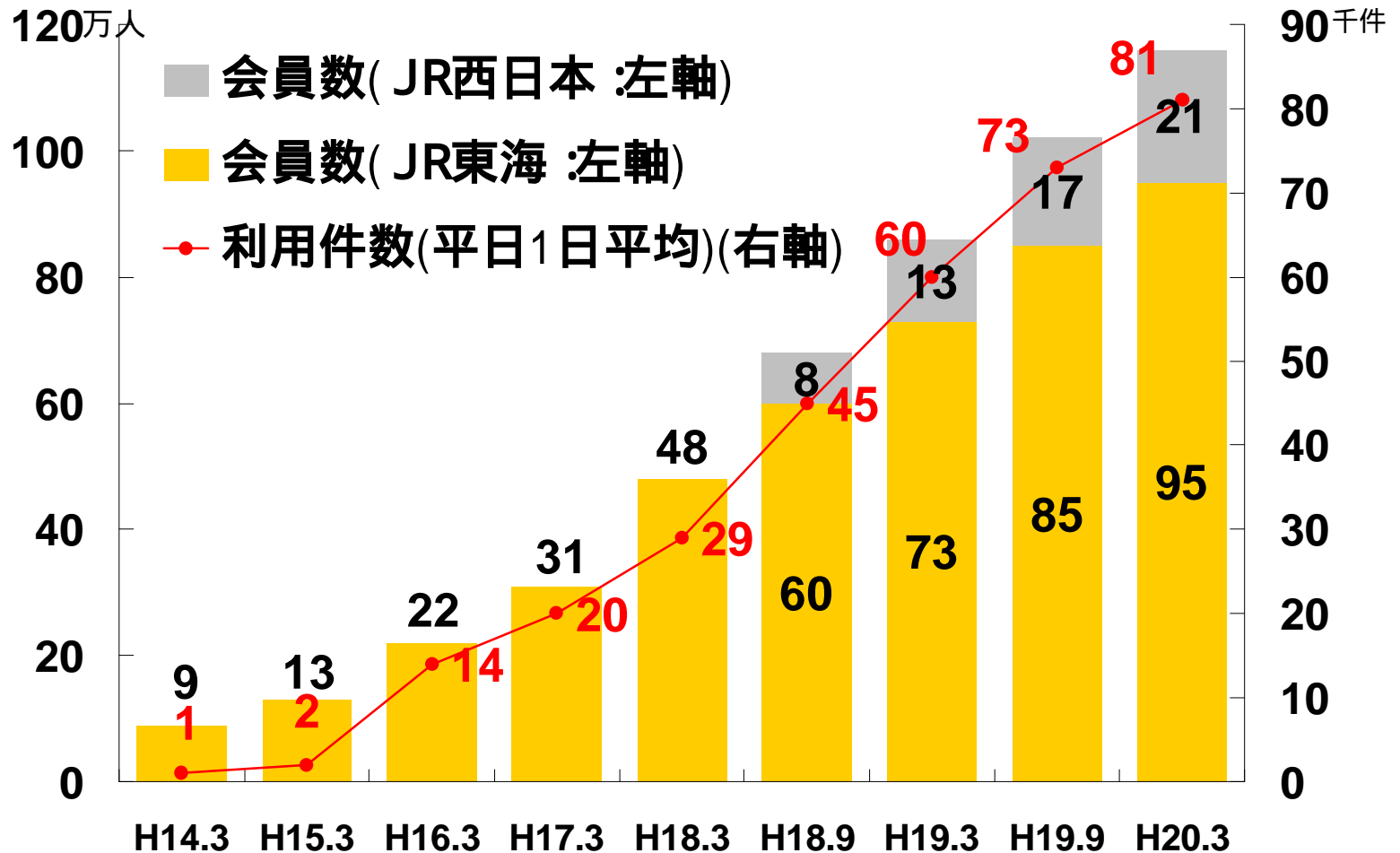
改正後の乗車人員

(3/15 ~ 4/14)



エクスプレス予約 - ご利用の状況

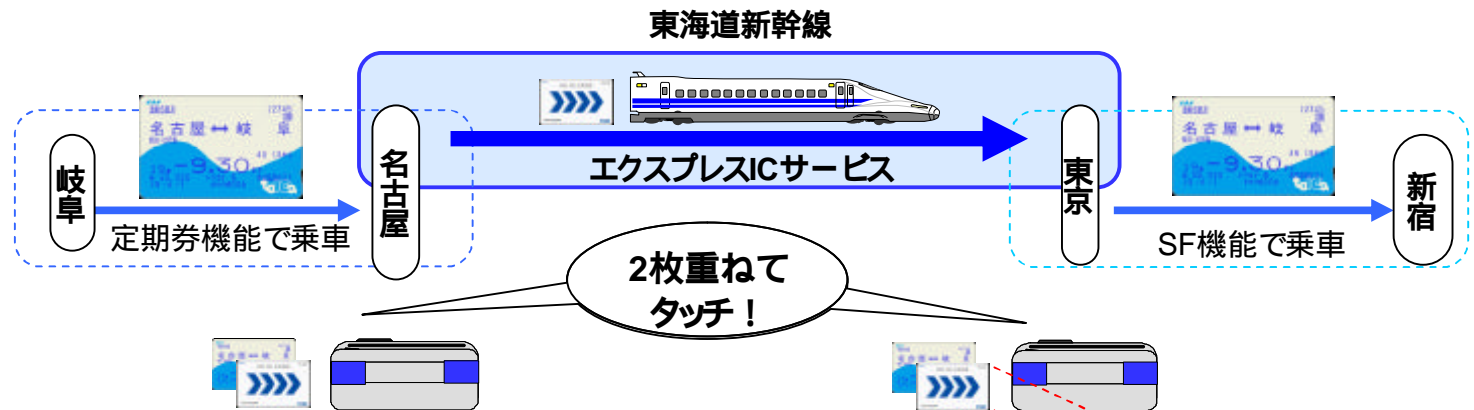
会員数、利用件数ともに引き続き堅調な伸び。



エクスプレス予約 - ICサービスの導入

ICカード

「エクスプレスICカード」と「TOICA」で新幹線と在来線の乗り継ぎをシームレス化

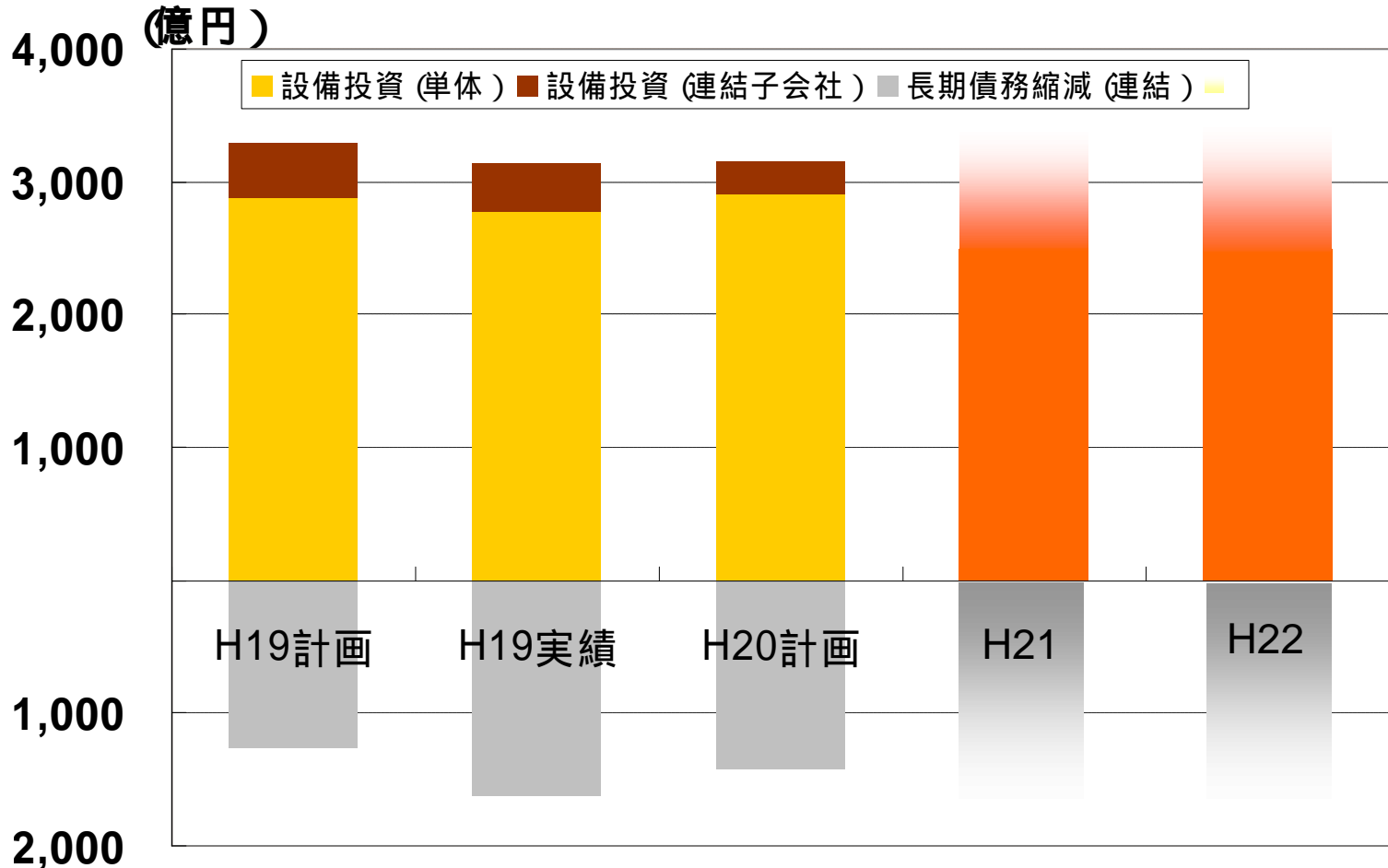


- 大きなトラブルもなく、順調にスタート。
- EX-ICの平日一日のご利用件数は、約2.0万件。
- 法人会員および山陽区間へのサービス拡大は、平成21年夏を予定。



設備投資・長期債務縮減

今期、設備投資は3,150億円、長期債務縮減額は1,420億円を計画 (連結ベース)



平成15年以降の施策

年度	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	
輸送サービス の向上	N700系 ダイヤ改正	のぞみ中心ダイヤ・品川駅開業	N700系の集中投入 (80編成 = 16編成/年 × 5年間)					インターネット	全山陽直通 定期のぞみ	全定期 のぞみ		
			のぞみ8本/時	全列車品川・新横浜停車		東海道・山陽直通「のぞみ」を増強						羽田空港再拡張予定
輸送力増強			~岡山 3本/時	~博多 2本/時	~広島 3本/時	電源増強		新大阪駅改良				
販売促進			エクスプレス予約 サービス拡大								のぞみ10本/時可能	
駅設備等			耐震補強およびそれに伴う駅リニューアル									
						東京駅はH20以降も継続						